

江戸時代の町なみ

江戸に入城した徳川家康が、はじめに開発したエリアがここだ。日本橋を中心に、商業と経済の中心地として発展し、現在へと続いている。常盤橋から東(地図右)へ続く本町通りと、日本橋を中心に南北に走る通町筋(現・中央通り)が江戸のメインストリート。本町通り沿いには、金座(金貨の製造所)や町役人の屋敷、通町筋沿いには越後屋(現・三越)、白木屋などの大きな店(大店)が軒を連ねていた。

江戸時代の商業の中心地

- 1 本銀町**
(現・日本橋本石町四丁目、日本橋室町四丁目、日本橋本町四丁目)
本石町、本町と共に四丁目まであり、①から東(右)へ続く。銀細工の職人が多く住んでいたことから、銀町とよばれた。のちに神田に新銀町(現・千代田区)ができたので、「本」の字を加えた。
- 2 本石町**
(現・日本橋本石町、日本橋室町、日本橋本町の各三～四丁目)
本石町の「石」は若石ではなく、昔つかわれていた穀物や米の容量の単位の「石」のこと。町名は、かつてこの辺りに米・穀物の商人がたくさん住んでいたことに由来する。江戸初期には石町とよばれていたが、のちに神田に新石町(現・千代田区)ができたため、「本」の字を加えた。
- 3 本町**
(現・日本橋本石町、日本橋室町、日本橋本町の各二～三丁目)
本町は徳川家康が入城して最初につくった町で、「本」は江戸の「大元」を意味する。常盤橋から東に続く本町通りは、江戸のメインストリートの1つだった。

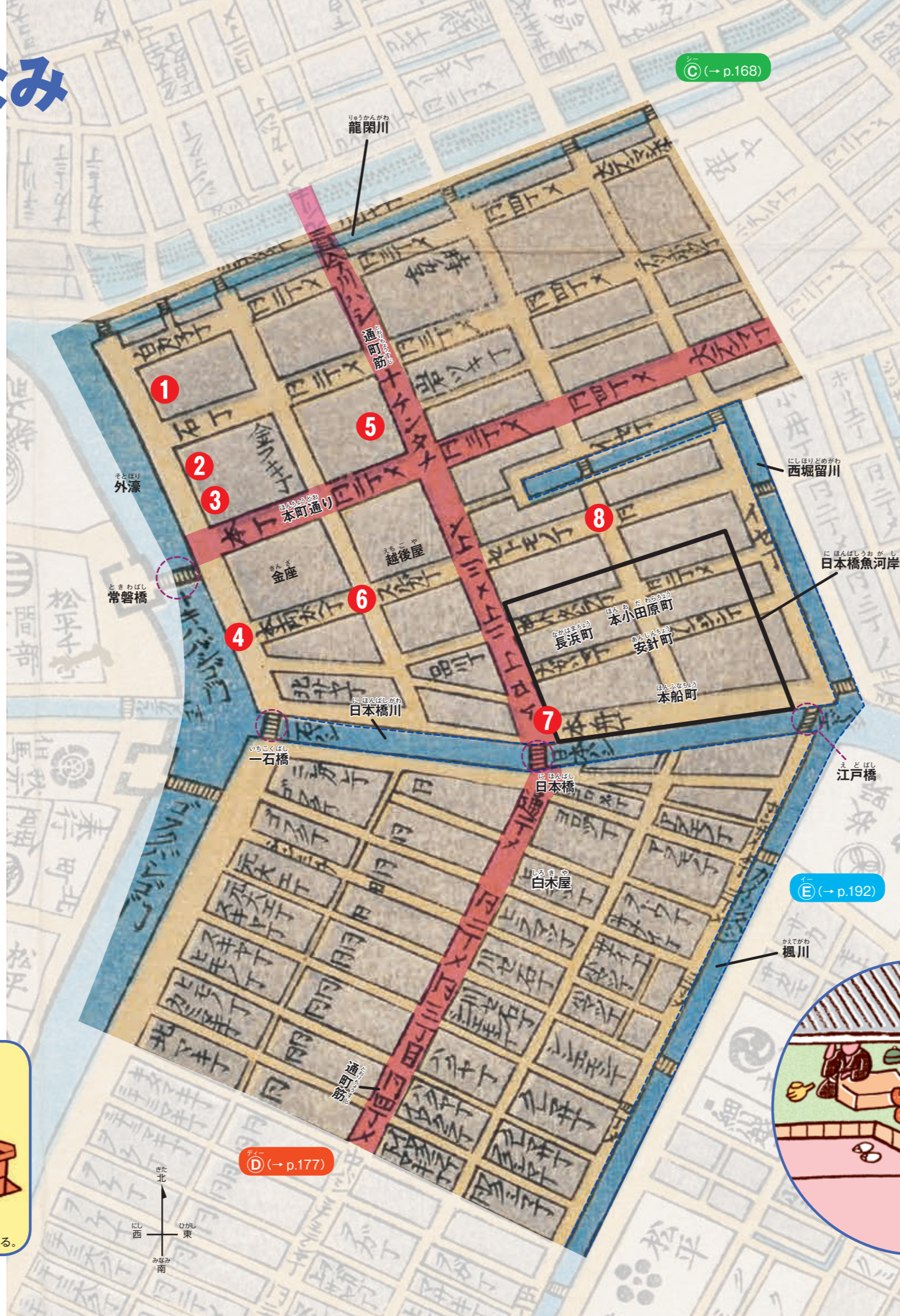


金の両替はここで!

- 4 本両替町**
(現・日本橋本石町一～二丁目)
金座と両替商があったことから、両替町となった。のちに京橋の南に新両替町(銀座) (→p.177) ができたため、「本」の字が加わり本両替町になった。



① (→ p.168)



② (→ p.177)

③ (→ p.192)

人形市や羽子板市でにぎわう

- 5 本石町十軒店**
(現・日本橋室町三～四丁目)
江戸時代の初期に、家が十軒あったことに由来する。ふだんはうちや糸の間屋が並び、節句にはひな人形や五月人形の市、年末には羽子板市が立ち、そのにぎわいは江戸名物になった。



富士山がよく見えた

- 6 駿河町**
(現・日本橋本石町一～二丁目)
通りに出ると、駿河方面(現・静岡県中部)にある富士山が見えたことに由来する。

江戸のメインストリート

- 7 室町**
(現・日本橋室町一丁目～二丁目)
日本橋から本町通りまでの通町筋に沿った町。通りの両側にはたくさんの店が並び、にぎわっていた。町名は京都にある室町にちなむとも、室とよばれる小屋が建ち並んでいたからともいわれている。



食器はやっぱり瀬戸物屋

- 8 瀬戸物町**
(現・日本橋室町一～二丁目、日本橋本町一～二丁目)
町名は、瀬戸物の産地だった尾張国の瀬戸村(現・愛知県瀬戸市)の陶磁器があつかう軒の店があったことに由来する。うかがし、ちか、うおんや、魚河岸に近かったので、のちに魚間屋も増えていった。